

編集後記

- 大人が「言い訳」と感じる弁明も、子どもにとっては「言い分」なのかもしれません。「言い分」とは本人なりの論理に基づいた主張なので、相手に聞いてもらえることが前提です。それを「言い訳」と跳ね除けてしまうと、子どもは否定されたように感じるかもしれません。「言い訳」を学びや成長に導く近道は、対話を通して、その中にある子どもの「わかってほしい思い」を探ることなのだと思います。
- 特集2では、さまざまな立場から、病気や障害のある兄弟姉妹をもつ“きょうだい”の抱える悩みや思いが語られました。「あなたの好きに生きていい」という言葉に、「できるならとっくにそうしている」と反発していた“きょうだい”のことを思い出しました。当人にしかわかりえぬ思いに寄り添う難しさを痛感しつつも、彼女の言葉からは「(そうは言っても)何とか乗り越えてきた日々」が垣間見えました。(き)

次号のお知らせ

- 特集1 体験格差へのアプローチ
学校でさまざまな体験を提供することは、体験格差の緩和や興味や関心が生まれる機会の保障につながります。実際の取り組みを交えながら、体験がもたらす子どもたちの変化や成長について考えます。
- 特集2 目標に向かって「やり続ける力」を育てる
「GRIT(グリット)」として、教育の場でも注目される「やり続ける(やり抜く)力」。目標を形骸化させず、努力や意欲の継続につながる取り組みやワークシートの工夫など、具体的な実践を紹介します。



ほんの森掲示板



学校教育相談

2024年 令和6年 12月号

定価 880円 (本体 800円)

2024年12月1日発行

●発行所

ほんの森出版株式会社

〒145-0062

東京都大田区北千束3-16-11

電話 03-5754-3346

FAX 03-5918-8146

URL <https://www.honnomori.co.jp>


●編集企画 学校教育相談研究所

●発行人 小林敏史
編集担当：金原優

●印刷所 研友社印刷(株)

- ・1月増刊号「学校教育相談 理論と実践のガイドブック」(企画：日本学校教育相談学会)の編集作業が進行中です。『生徒指導提要』が改訂され「教育相談は、生徒指導から独立した教育活動ではなく、生徒指導の一環として位置付けられるものであり、その中心的役割を担うもの」と明記されました。こうした状況の変遷を受けとめながら、学校教育相談のとらえ方(理論)や具体的な取り組み(実践)のあり方について、日本学校教育相談学会が総力をあげて企画するものです。充実した内容の増刊号を、どうぞお楽しみに!

●本誌の2024年4月号からの1年間の誌代は13,200円(税込 増刊号2冊を含みます)。振替口座 00140-4-768848 雑誌・書籍のご注文は、書店もしくは直接小社にどうぞ。本誌定期購読の場合は送料サービス。書籍・バックナンバーのご注文は1冊につき送料100円(3冊以上送料サービス)でお送りします。お支払いは送本時同封の郵便振替用紙で。

●  **文書ファイル配布** ページ下にこのマークが入っている
※詳しくは奥付を! 資料のファイル(ワード・パワポ・PDFなど)を希望の方はホームページからご連絡ください。

ほんの森出版

検索